

助成者	丸山 幸子	活動期間	2017年4月～2020年3月
所属機関	F.C.Manis.マニスファンクラブ	職名	代表理事

森林火災からボルネオの森を市民で守る防災予防と環境保全活動

【活動場所】 インドネシア ボルネオ島パンカランブーン、クマイ

【事業目的】 オランウータン保護区のあるタンブンジュンプティン国立公園周辺ではプランテーション開発が進み、2015年エルニーニョによる記録的な乾燥状態であったにもかかわらず火入れを行ったことで大火災が広がり、自然保護区約13万haの森が焼失した。これを受け、森林火災をいかに未然に防ぐかを目標に「環境教育」「防災」「植樹」の3つの活動を連携させて、地域の住民や子どもたちへ環境意識と防災意識の向上を図り、将来的には住民自身が自然保護区の環境保全を行っていくことを目的とする。



火災地への植樹活動

【活動内容】

- ①環境教育・防災・植樹の実践授業実施：導入研修⇒森林火災跡地見学⇒消火・植樹体験⇒国立公園でのオランウータン見学⇒振り返り研修⇒防火ポスター作成
- ②啓蒙活動：防火ポスター展とエコツアーポスターコンクールを実施。優秀3作品を選定し、地域内への掲示や案内書デザインへ採用
- ③植樹祭開催（学生100名、大人30名参加）
- ④環境教育副教材（パーム油問題、近絶滅種のオランウータン、森林火災及び泥炭湿地）および地域学習冊子の作成

【活動成果】

地域の人が地元の自然環境を知らないことから、校外学習を取り入れた実践研修を、1年目は市街地の学校を中心に、2年目は市街地と村の学校の交流を交えて展開。学習成果として楽しみながら作成したポスターはレベルも高く、地域へ一定の啓蒙効果を挙げることができた。2年の活動を踏まえ、活動を広げるには更に学校と協働して教育へ組み込むことが必要と考え、3年目は現地パートナーおよび現場教師との連携を強めて、これまでの活動コンテンツを現地の教育教材化する活動へ注力した。今後も現地関係者による連携が進み、所期の目的へ向けた活動が継続されることを期待したい。



泥炭地についての研修